

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2018

Autumn

洋上からの
皆既日食

第二特集

美しい街並みと輝くオーロラが待つ

アイスランド [レイキャビク]

一生に一度は見たい
洋上の天体ショー

Total Solar Eclipse

皆既日食

第101回ピースボート地球一周クルーズで観測を予定している「皆既日食」。さまざまな条件が奇跡的に重なって見ることができる現象だけに、生きていてそう何度も見られるものではない。今回はそんな皆既日食の魅力について、国立天文台特別客員研究員の伊東昌市さんにお話を伺った。



CONTENTS

特集

洋上からの皆既日食 …… P3

皆既日食が見られる条件…………… P4

皆既日食〔船から見る貴重な現象〕…………… P5

皆既日食〔船からの観測にあたって〕…………… P6

船上で見ることができる自然現象…………… P7

第二特集

美しい街並みと輝くオーロラが待つ

アイスランド…………… P8

寄港地に行く
スリランカ〔コロンボ〕…………… P12

参加者インタビュー …… P14

PEACE BOAT NEWS…………… P16

ピースボート災害ボランティアセンター …… P18



Ocean Dream

アイスランド・レイキャビク港停泊中のオーシャンドリーム号

表紙の写真

皆既日食は、第101回クルーズにてイースター島からタヒチへ向かう航路で観測予定。



宇宙の神秘を感じる 皆既日食との出会い

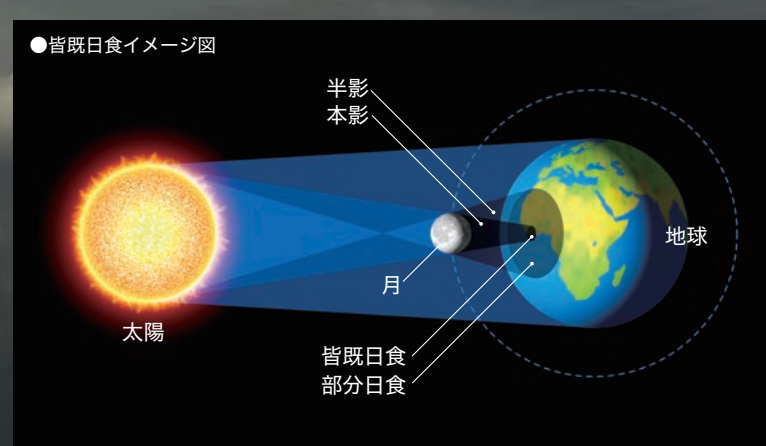
☀ 船は皆既日食の観測に理想的な環境

「皆既日食は、特定の地域で区切って考えると数百年に一度訪れるかどうかという、生きている間に見られること自体が非常に貴重な現象です。そして、そのすばらしさを体験するには、船がやっぱり一番」。そう語るのは、ピースボートで「星空の専門家」として水先案内人を務める国立天文台特別客員研究員の伊東昌市さん。

皆既日食は、太陽と月と地球が一直線に並び、太陽が月によってすべて隠れてしまう天文現象。地球全体でもても年に数回起こるかどうかわいいう稀な現象だ。観測できる場所や時間は毎回異なり、通常は数分で終わってしまう。しかし本クルーズでは幸いなことに、イースター島からタヒチへ向かう航路で、最大3分半という比較的長めの観測を予定している。

皆既日食が起こるのは、太陽が輝く白昼のこと。皆既が始まるにつれ、空は次第に青色から鉛色に。太陽と月がきれいに重なると、突如として闇夜が訪れ、地平線付近は夕焼けのような色に変化する。暗く独特の雰囲気包まれた空では、月によって隠された太陽の周りに、水星や金星を

はじめ、二等星と呼ばれる星々のいくつかが見えることもある。さまざまな条件が整ったうえで観測できるこの現象だが、船で観測する最大の特長は、天気の良いさうな観測地点を選べること。さらに洋上は空をさえぎるものが一切なく、感動の一瞬を肉眼で捉えるには、陸上よりも理想的な環境が整っているのだ。



☀ 洋上から望む神秘的な現象の数々

部分日食ではなく皆既日食だからこそ見られるのが、「ダイヤモンドリング」と「コロナ」、そして「プロミネンス」だ。「ダイヤモンドリング」は、皆既が終わる瞬間に、月の谷間から閃光が現れ始めて起こる現象。まさにダイヤモンドのような輝きが美しい。これが見えると、まもなく漆黒の空が瞬く間に昼の世界へと戻る。「コロナ」は、太陽から四方八方に延びる無数の流線のこと。



太陽の光が次第に欠けていくのがわかる。

普段は太陽の明るさにかき消されて見ることができないが、皆既日食の時だけは、このコロナを肉眼で見ら

れる。そして「プロミネンス」は、皆既のあいだ終始見られる、太陽のまわりのガスが磁力線に沿って漂う様子。日本語では「紅炎」といい、鮮やかなピンクがかつた赤色に見え、まるで太陽の縁で炎が燃えているように見える。そして本クルーズのもうひとつの魅力が、これらの現象に加え、南半球の天空にかかる夏の天の川を望めるという点。北半球に位置する日本からは、天の川の一番濃い部分は南の低いところしか見えないが、今回は船そのものが南半球に行くため、目を見張るようなゴージャスな天の川を天頂近くに見ることができる。日食に加えて日本では見られなかった星々との出会いまで一緒に体験できるのは、このクルーズを選んだ人だけの特権だ。

伊東さんがはじめて皆既日食を見たのは1973年のこと。当時はまだ大学生で、多くの機材を持ってサハラ砂漠を南下し、地上で見える皆既日食としては最長の7分を超える日食を目の当たりにしたという。当時は8ミリのフィルムカメラのファインダー越しでその光景を見たというが、皆既日食の魅力はやはり肉眼で見ることだと語る。専門家として乗船した過去5度の皆既日食クルーズでは、すべて観測に成功。神秘の瞬間を体験した乗船者の中には、感動のあまり涙を流したりする人もいたのだという。実際に体験した人でなければ感じられない喜びをその場で共有することも船旅の良さだ。本クルーズでは伊東さんも水先案内人として乗船。非常に頼もしいパートナーを乗せて、南太平洋上の感動の瞬間を迎えることになる。



— ダイヤモンドリング —

月の谷間から太陽の光が漏れて起きる現象。月の縁が複雑な地形であれば、ダイヤが複数に見えることも。



— コロナ —

太陽を取り巻く希薄なガス。よく観察すると、ループ状や紡錘状の模様などがあるのがわかる。



— プロミネンス —

磁気力でプラズマが太陽の表面に浮き上がり炎のように見える。皆既直後や皆既の終了時に見ることができる。



船上で見ることができる 自然現象

船で地球一周をしていると、洋上で見ることができる自然現象は「皆既日食」以外にもたくさん。どのような自然現象を見ることができるのか、ピースボートオリジナルキャラクター・船の妖精シップリンがピックアップ！



皆既日食 [Solar eclipse]

ダイヤモンドリングは圧巻のひとつ。観測地まで飛行機で何時間もかけて行くのとは違って、観測が比較的楽なのも人気の理由。



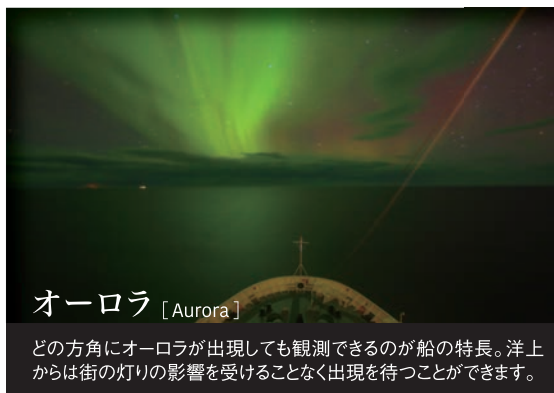
グリーンフラッシュ [Green flash]

太陽が完全に沈む直前や昇った直後、緑色の光が一瞬だけ輝いたように見える稀な現象。見ると幸せになれるという言い伝えも。



天の川 [Milky Way]

船から望む天の川は、陸で見るときよりも濃くはっきりと見られます。星空観賞会ときには、デッキは自然のプラネタリウムに。



オーロラ [Aurora]

どの方向にオーロラが出現しても観測できるのが船の特長。洋上からは街の灯りの影響を受けることなく出現を待つことができます。



二重の虹 [Double rainbow]

運がよければ虹が二重になっている光景を見られることがあります。陸地と違ってささぎものがないので、虹自体が大きいんです。



スコール [Squall]

雲の真下が霧のように煙っていて、その部分だけ雨が降っています。スコール雲と呼ばれ、船旅だから巡り会える貴重な光景です。



天気のよい日はデッキで海をぼーっと眺めてみるのもおすすめ。運がよければ、イルカに出会えることも。

Total Solar Eclipse

船内では、水先案内人として乗船する伊東さんによる船内企画も実施される。観測時に失明などのけがをしないような安全な観測の方法から、日食が起るメカニズムなど、観測に役立つ知識を船内で学ぶことができる。本クルーズだけでなく、今後どこで再び感動の日食に出会えるのかも教えてくれるので、ぜひ講座にも参加しておきたい。

観測時の最も大事な注意事項は、太陽が月によってすべて隠れている間以外は、太陽を直接見てはいけないということ。その前後の部分日食を観察・撮影するためには、日食めがねや減光フィルターが必要だ。また肉眼で見るとは船からの観測は最適だが、若干の揺れを伴うため、大きな望遠鏡を持ち込んだ精密な写真撮影には向いていない。そのため、できれば今回は肉眼でその姿を目に焼き付けることに専念したい。

伊東さんによる観測時の最大のアドバイスは「欲張らない

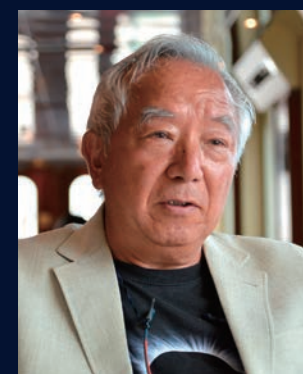


船上からは皆既日食だけでなくさまざまな光景を見ることができる。

ある宇宙の姿まで想像できるとよいですね。例えば地球というのは宇宙の中でどういう存在なのかといった、普段は立ち止まって考えるのが難しいことも、船の上だと波の音を聞いているだけで哲学的に考えられる部分があると思うんです。ピースボートは環境保護といった活動もやっていて船内企画で学ぶ機会もありますし、考える素材がたくさんあって非常によい空間です。また船内での交流もピースボートの良さです。世界の人と触れ合つて、さらに星が見られるなんて、こんな素敵な時間の使い方はありません。皆さんと一緒で、星の心をより楽しみにしています」

「星空の専門家」と共に迎える奇跡の天体ショーが、今から待ち遠しくて仕方がない。

今回、「皆既日食特集」についてご協力いただきました。



国立天文台特別客員研究員

伊東 昌市さん

ITOH Shouichi

杉並区立科学教育センター物理技術指導係長としてプラネタリウムを担当する。2008年～2015年まで、国立天文台天文情報センター専門研究職員として勤務。国立天文台4次元デジタル宇宙(4D2U)ドーム・シアターの管理運営、国際科学映像祭の開催を行い、天文学普及や人材育成に力を入れる。



日食観測Goods

太陽の光が強いところでは、日食めがねは必須。船内でも販売するのでご安心を。太陽の光が弱くなったときは双眼鏡も有用。船の揺れもあるため、おすすめの倍率は7、8倍程度だ。



日食めがね



減光レンズフィルター

船からでも写真が撮れないわけではないが、減光フィルターは用意しておきたい。

美しい街並みと輝くオーロラが待つ

アイスランド

Iceland | レイキャビク 

手つかずの壮大な自然やかわいらしい街並み、幻想的なオーロラなど、見どころ満載のアイスランド。北海道より少し大きな島に約33万人が暮らし、古くから水産業で栄えた国だ。首都であるレイキャビクは「煙たなびく湾」という意味。最初の上陸者が近郊の温泉から上る湯煙を炎の煙と見間違えて名づけたとされている。



楽しい街歩きが魅力の
地球最北のカラフルな首都レイキャビク

北緯64度8分に位置し、世界でも最北の首都として知られるレイキャビク。この街はコンパクトで、気が向くままに散歩を楽しむのがおすすめ。

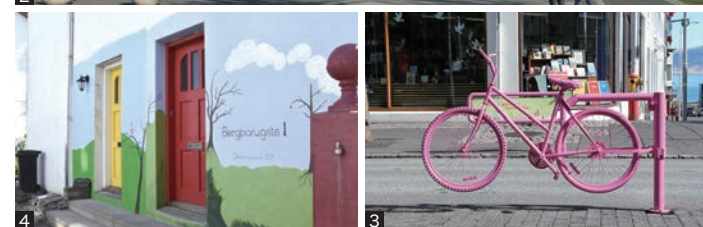
街のシンボルは、ハットルグリムス教会。火山の噴火によるマグマをイメージした、近代と重厚さが共存するシンプルなデザインが特徴だ。ここはプロテスタント・ルター派の教会で、日中は住民も行き来している。教会前の広場に建つのは、コロンプスより500年早くアメリカ大陸に到達したアイスランド人のバイキング像だ。

街の中心部にあるチョルトニン湖は、レイキャビク市民の憩いの場。一年を通して野鳥を見ることができ、土日には家族連れで賑わう。湖の周りには市庁舎、国会議事堂、大学といった建物をはじめ、カラフルでかわいらしい家々が並び、散策にはもってこい。

メインストリートには、おしゃれなコーヒーショップやレストランなどが建ち並び、ショッピングをしているとあつという間に時間が過ぎてしまう。食事はシーフード、ラムなど地元食材を使ったものが代表的だ。



1:ウォーターフロントにある船の形をした芸術作品「サンボイジャー」。2:ハットルグリムス教会の中は白を基調とした美しい空間が広がりパイプオルガンの音色が響く。3:歩行者天国のゲートが自転車の形になっている。4:カラフルな街並みは歩いているだけでも楽しい。



ICELAND Food&Goods

写真映える色鮮やかな盛りつけ。

伝説の妖精トロールは北欧土産の定番だ。



シロップは種類も豊富。ぜひお土産に。

シーフードが多いのは島国ならではの。



Reykjavik



地球が生んだ自然の息吹を感じられる「火と氷の国」

国土の約11%が氷河に覆われ、火山活動が活発なため「火と氷の国」という異名を持つアイスランド。ユーラシアプレートと北アメリカプレートによって土地が成り立っており、ギャオと呼ばれる「地球の割れ目」が見られることで有名だ。自然に恵まれたこの国では、全電力を地熱・水力などで生み出すなど、自然エネルギーを利用した施設が多く「再生可能エネルギー大国」としても知られる。

大自然を満喫するなら、島の南側に広がる「ゴールデンサークル」がおすすめ。ここは「シンクヴェトリル国立公園」「ストロツクル間欠泉」「ゲトルフオスの滝」の3つの名所で構成されている。シンクヴェトリル国立公園は、世界遺産にもなっており、先述のギャオの規模が大きいことで有名。大陸プレートとの間を歩いて観光することも可能で、ダイナミックな地球の営みを肌で感じられる世界でもめずらしい場所だ。ストロツクル間欠泉では、約4〜8分間隔で熱水が噴き出し、その高さは40mに及ぶときも。地中のミネラルやガスによつて地面が変色しているなど、不思議な光景が広がっている。そしてゲトルフオスの滝は、幅70m、落差30mに渡って

豪快に水煙を上げながら流れ落ちる様子が迫力満点。アイスランド語で「金の滝」を意味し、晴れた日には虹がかかり黄金色に輝くことからこの名前がついたという。滝の勢いが強いため、真冬でもゲトルフオスの水が凍ることはないというから驚きだ。

そしてこの国のもうひとつの名所が、世界最大の露天浴場「ブルーラゲーン」。一帯が青みがかった乳白色のお湯が印象的で、浴場全体を二周するだけで十数分かかるほどの広さを誇る。「シリカ」と呼ばれる真っ白な泥パックは、肌によいと女性に大人気だ。施設内にはカフェやレストラン、サウナなどもあり、入浴以外にも楽しめるようになってい

る。アイスランドは、まさに地球を体感できる場所。いまだ手つかずの自然が生み出す地球の息吹を肌で感じてほしい。



シンクヴェトリル国立公園を歩いていると、地球の割れ目をよく見かける。

★ 神秘に包まれた魅惑のオーロラを船上から望む

第102回クルーズで予定しているオーロラ鑑賞チャンスは全6回。その舞台となるのが、ここアイスランドだ。地球上でオーロラを見ることができるのは、オーロラベルトが発生する北極や南極を中心にした一部のエリアの中だけ。アイスランドは、国自体がそのエリアに入っているため、一年のうちで約7カ月近くオーロラを見ることができる。

オーロラという現象は、宇宙空間に無数に飛び回る電子が地球とぶつかることで、光が生まれるというもの。そのぶつかり方や高さによつ

て色が変わるため、赤や緑、青色などの色とりどりのオーロラが鑑賞できる。

通常の観測ツアーでは、地上で忍耐強くオーロラの出現を待つことになるが、天候の影響を受けやすく、雨雲ひとつで中止となることもしばしば。その点、船上で観測するメリットは多い。ひとつは、観測できる可能性が高い地域を目指して移動ができる点。加えて、街明かりなどの光がなく、オーロラを見つけやすいという点も魅力だ。

過去のピースボートクルーズでも見事に観測に成功。オーロラベルト圏内に入ったことを記念したセレモニーが開催されたり、特別なディナーが用意されたりするなど、船内はオーロラ一色に。今回は計6日間にわたる観測チャンスがあるが、常に外で待機する必要はなく、オーロラが出現すると船内放送でアナウンスがされるため、あたたかい空間で待てる点もうれしい。地球の鼓動を感じる、素晴らしい景色を心ゆくまで堪能してほしい。



「オーロラ」という名称はローマ神話の暁の女神であるアウロラに由来するとされる。



船なら360度どこに出現しても観測できる。



Great Nature

シングヴェトリルト国立公園

930年にノルウェーからの移住者によってここで開かれた民主的な全島集会所が、世界最初の民主議会と評価され2004年に世界遺産に登録。

世界遺産

寄港地 を行く

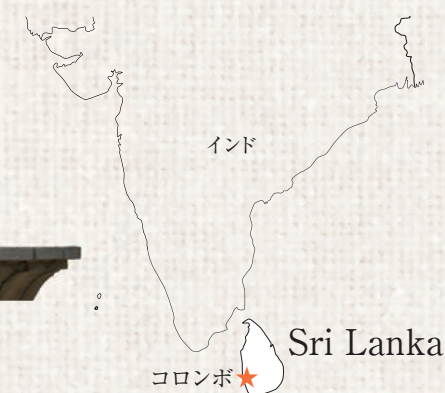
クルーズ
< Preview >



スリランカ民主社会主義共和国

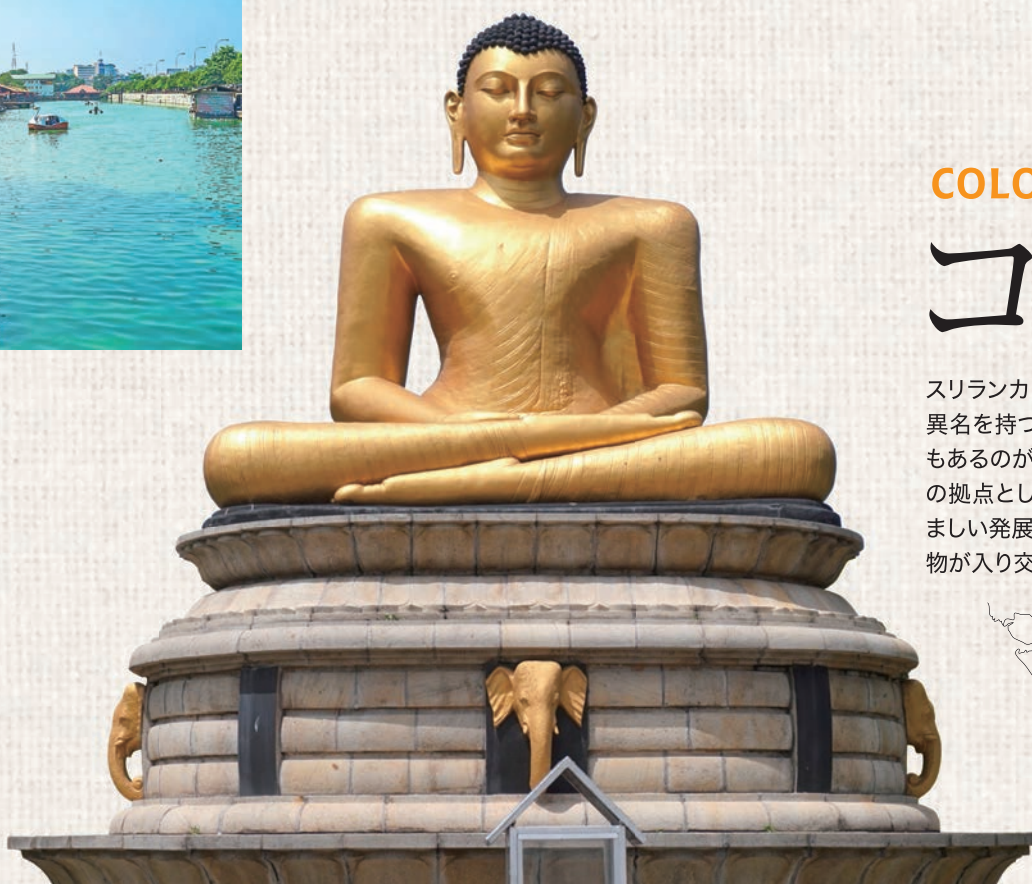
COLOMBO コロンボ

スリランカは、その島の形から「インド洋の涙」という異名を持つ国。この国最大の都市で、かつての首都でもあるのがコロンボだ。この街はスパイスや紅茶貿易の拠点として栄えたインド洋有数の港町。近年、目覚ましい発展を遂げており、現代的な建物と歴史的な建物が入り交じった異国情緒あふれる街並みが特徴だ。



Sri Lanka

コロンボ



ヴィハーラ・マハー・デーウィ公園にある黄金の巨大仏像。広々とした公園は、週末には現地の人々でにぎわう。

イギリス統治時代の面影が残る洗練された美しい建物と、南アジア特有の雑然とした空気が融合した独特な雰囲気のコロンボ。

当時の面影を残すコロニアル建築がまず目に飛び込み、車窓観光も楽しい寄港地だ。国民の7割が仏教徒ということもあり、キャラニヤ寺院やシーマ・マラカヤ寺院をはじめ、街中に多くの寺院が見受けられる。この国では象が神聖な動物と言われ、寺院の入り口などに彫刻が施されているのを多く見ることになるだろう。なお寺院を訪れる際は、彼らの信仰に敬意を払い、露出の多い服装は避けたほうがよい。また靴を脱ぐ必要があるの、脱ぎやすい履物がおすすだ。

コロンボの歴史を知るには、コロombo国立博物館へ。1877年、当時のイギリスのセイロン総督だったウィリアム・グレゴリーによって建てられ、さまざまな装飾品などスリランカの民俗にまつわるさまざまな展示が揃う。

そしてこの街を訪れたなら、食事はぜひカレーに挑戦を。1日3食カレーを食べるというこの国では、何種類ものカレーを手で食べるのが現地の人々の主流だ。おみやげに人気なのは、種類が豊富で値段もお手頃なセイロンティー。明るく穏やかなコロンボの人たちとの交流が楽しめる寄港地だ。



1: 赤い縞模様が特徴的なジャミ・ウル・アルファー・モスク。2: スリランカはビーチもきれい。3: コロンボ国立博物館は国内で最も古い博物館。4: ガンガラマ寺院はコロンボ最大級の寺院。5: 建物は統治時代の面影が色濃く残る。6: 寺院巡りもこの街の楽しみ方。7: ペイラ湖は都会のオアシススポット。

ツアーで楽しむスリランカ

オプションツアーやオーバーランドツアーを選ぶのも、旅の楽しさを広げる選択肢のひとつ。詳しくはガイドブックをチェック。



かつてアラブ商人たちの中継貿易港として栄えた「ゴール旧市街」へ。世界遺産の要塞は必見だ。



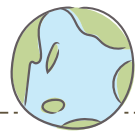
オーバーランドツアーで世界遺産「シーギリヤ・ロック」へ。ジャングルに囲まれた巨岩の上に宮殿跡が広がる。



8: 辛いカレーもあるが、マイルドなものもあり、どれも美味。9: 街中は活気がいっぱい。10: 街中では花屋を見かけることも多い。11: 現地の人々は穏やかに暮らす。12: 紅茶はお土産に最適。13: 土産物屋には、象の置物やキーホルダーが並ぶ。



ピースボートクルーズに参加してみよう



「100日間の船旅をどう楽しむかは、あなた次第」。そうは聞くものの、乗船まではわからないことだらけ。そんな方々に向けて、地球一周の船旅親善大使（アンバサダー）として活躍する斉藤照子さんが自身の体験を語ってくれました。



SAITO Teruko

第79回クルーズ乗船 斉藤 照子さん

第79回クルーズに乗船し、いまは地球一周の船旅親善大使（アンバサダー）として活動中。乗船者の気持ちもわかる立場として、懇談会などで全国を飛び回る。

今まで旅行した「点」を「線」で繋ぎたかった

10年前にピースボート地球一周クルーズのポスターを見かけて、いつか世界一周をしたいと思っていました。今まで友人とよく旅行していたので、それらの「点」を「線」で結びたいと考えていたのと、スエズ運河とパナマ運河を通じて世界一周したいという想いが強かったですね。

転機となったのは、夫が定年を迎えたときです。夫はかねてよりマチュピチュに行きたいと言っていたのですが、いざ定年を迎えると、テレビで何度も見



申し込み後はさまざまな人から話を聞いた

申し込んだ後に行った旅行説明会で、スタッフの方から一人参加も多いという話を聞いて安心したことを覚えています。また私の場合はそのあとに大阪のピースボートセンターにボランティアスタッフ

として通い、同じクルーズに乗船する仲間やスタッフからいろんな話を聞けたことがすごく参考になりました。ですから、乗船前はさまざまなイベントに参加してみることをおすすめします。



実際に私はいまアンバサダーとして、月2回ほど全国で乗船予定者の方々と懇談会を行っています。そこで皆さんが抱いている乗船前の疑問などに答え、安心して船に乗れるようなお手伝いをしています。こういったイベントはこれからも増えていくと思いますので、案内があれば気軽に参加していたければと思います。



下船後も旅が続いている感覚

ピースボートに乗って、私は人生が大きく変わりました。一歩踏み出すことでこんなに世界が広がるんだと実感しています。乗船するまで、付き合っ方は趣味や学生時代の友人でしたが、ピースボートに乗ったことで、いろんな世代や国、地域の人のつながりを持つことができました。

下船した直後は、家で荷物が片付かないうちに、船で仲良くなった友人のところへ会いに行くというせわしない日々が続きました。夫は「旅行は非日常で、それが終わると日常に戻る」と言うのですが、アンバサダーとして今も活動する私の姿を見て「まだ旅の続きをしているようだね」と言っています。それは実際に乗った人でないと理解できない感覚かもしれません。ピースボートクルーズはみんな親切ですし、世代を超えてありのままの自分で過ごせる船です。気負いや迷い、不安はなくて大丈夫。まさに「迷ったら進む」。そこから道は拓けていくと思います。



学生時代、本当はナースになりたかったのですが、あとちょっとの勇気がなくて看護学校に行かなかったんですね。それがどこかに残っていて、船の中ではそういう後悔をしないようにと思っていました。そこでもともと歌が好きだったというところもあり、船内ではミュージカルに挑戦してみました。公演までは練習の日々が続きましたが、この活動を通じて若い方と知り合えて、すごく達成感がありました。

練習のないうちにも、船内新聞を見ているとなにかしら面白そうな企画が行われていますし、退屈することはありませんでした。忙しく過ごす一方で、たまには海を眺めながらゆっくり過ごす時間もありました。デッキや通路には、一人でのんびりできるような場所がたくさんあるんですね。なにより食事や掃除といった家事をやらなくていいので、いつもは夕飯の買い物に出かけている時間も、自分のためだけに使えるというのは非常に新鮮でしたね。食事は和食が中心で、特別にお吸い物がおしかったのが印象的でした。



当初の乗船の目的は「世界一周したい」という想いだけでしたが、結果として、船の中でいろんなことを体験できました。船内では被爆体験を聞くような機会もありましたし、支援物資として楽器を届ける交流コースに参加したこともありました。これらを通して、特に「交流」はピースボートならではの魅力だと感じました。

ピースボートクルーズを楽しむコツは「迷ったら進む」

ピースボートを楽しむコツは「苦手意識を持たないで、何でもやってみること」。よく自分では「迷ったら進む」と言っています。例えば、今までできなかったことに挑戦する「など旅のテーマを掲げて乗船する





第86回、第91回クルーズではオーバーランドツアーで保護センターを訪問。実際に動物たちの生活を観察した。



坂東園長は、ボルネオ保全トラストジャパン理事を務める。

ボルネオ島は東南アジアに位置する世界で3番目に大きな島。もともと地球上の50%以上の生物がいるといわれる生物の宝庫だった。いまここで問題になっているのが、アブラヤシプランテーション開発による熱帯雨林の伐採だ。私たち日本人も伐採と引き換えに建築材やパーム油といった大きな恩恵を受けているのが実情だ。しかしその一方で、伐採により生きる場所を奪われたゾウがプランテーションや村落に出没し、被害を受けた農民が銃や毒で殺してしまう悲しい事件が起きている。

活動が、NPO法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンの「恩返しプロジェクト」だ。この活動の中心は、ピースボートでも水先案内人を務める旭山動物園の坂東元(ばんどうげん)園長。ジャパングレイスもこの活動に参加しており、船内の8F中央右舷側に設置された自動販売機の飲料を買うことで、売り上げの一部がこの活動に寄付される。またオプショナルツアーとして、活動が行われているボルネオ島に行き、乗船者の見識を深めるスタディーツアーも実施。実際にそこで募金がどのように使われているのかも見る事ができる。乗船時はぜひボルネオ支援自動販売機を気にかけてみてほしい。



熱帯雨林の環境保全に貢献 ボルネオ支援自動販売機が船内に



すっかり顔なじみの契約農家の方々と記念撮影。バナーは契約農家の方々のお手製だ。



白山の伏流水が流れる豊かな環境が魅力。



今年は契約農家の方々も満足の出来。

第99回地球周クルーズから船内で提供されるお米に「白山米」が採用された。このお米の最大の魅力は、炊きあがったあともおいしさが続く点。今回の採用にあたってジャパングレイススタッフが石川県金沢市・白山市を訪問した。

8月23日から2日間にわたり、ジャパングレイススタッフが石川県金沢市・白山市を訪問。初日に訪れた石川県庁では、第99回クルーズからオーシャンドリーム号で「白山米(ゆめみづほ)」を提供することや、来年8月に金沢港に寄港することを谷本正憲県知事へ報告した。谷本知事は「加賀野菜も使ってもらえるようになればありがたい」と語り、白山米に続いて石川県産品が世界へ羽ばたいていくことに期待を込めた。

午後には契約農家を訪れ、実際に第99回クルーズに載せることになる白山米の稲刈りに立ち会った。今年は全国でみると西日本豪雨により被害を受けた地域もあったが、石川県は特に被害を受けることなく、契約農家の方々は今度は例年に比べて出来が早く、いつも以上にいいお米ができた」と口を揃える。

2日目には、地元J・A松任が管理する菜園を訪れ、ミニトマト(プヨ姫)や梨といった新鮮な石川県産品の紹介を受けた。「トマトはフルーツのように甘かった」とスタッフも思わずうなるほどの出来で、洋上居酒屋「波へい」ではミニトマトが、レストランでは梨が夕食の限定メニューとして登場することになった。

9月1日に横浜港で行われた第99回クルーズの出航式には契約農家の方々も参加。その後には船内の見学も行い、白山米の紹介が多言語で書かれたパネルがレストランの前に飾られているのを見て驚いている様子だった。本クルーズでは、鮮度を保つために船に載せる直前に精米をするという点にもこだわっており、炊きたてのごはんを味わった乗船者は、その味に感動していた。

「生産者の顔が見えるものをお客様へ提供したい」というジャパングレイスの想いから始まった今回のプロジェクト。さまざまな人々の想いが込められた石川県産品が、いに世界への船出を迎えた。地球の裏側にいても、ぜひ日本のおいしいごはんを味わってほしい。



ミニトマトや梨も自慢の県産品だ。

吉永小百合さん、核廃絶に向け 「大事なのは発言すること」



撮影:水本俊也

発言に触れ、「被爆国の人間として大事なのは発言すること、そして核兵器がもう二度と使われないという状況を、みんなできつくりあげていくことだ」と思っています」と発言した。

ピースボートの川崎哲も「核兵器禁止条約の採択も、そんなの無理だ」と言われてきました。しかし、やってみたらできたということなんです。いま核兵器禁止条約ができたところで核廃絶なんて無理だという人たちがいますが、やっぱりやろうよ、とみんなが声を出すのが本当に大事だと思います」と核廃絶に向けた発言の重要性を改めて強調した。

9月24日に「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」記念イベントとして『核なき世界へ向けて』被爆国の役割を考える』が、明治大学駿河台キャンパスにて開催された。

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員を務めるピースボートの川崎哲とのゲストトークには、原爆詩の朗読などの活動が続いている俳優の吉永小百合さんが参加。トーク内では、核戦争などによる人類滅亡のタイミングを午前ゼロ時と見立てると、いまは2分前だという世界の科学者たちの

ゲストトーク以外にも、昨年7月に国連で核兵器禁止条約が採択され1年が経ったいま、私たちに何ができるのかをテーマに、関連団体の代表によるパネルディスカッションが行われ、会場に集まった550名は貴重な話の数々に耳を傾けた。



その時、その場所、その人たちに必要な支援を。



最近では岡山県倉敷市真備町へ災害支援に駆けつけ、現在も活動中だ。高齢化の進む地域では、高齢者が被災家屋を自力で清掃することが難しい場合も多い。そういった場所にボランティアが支援に行くことで“もう一度ここでやり直せるかもしれない”と思ってもらえることは大きなやりがいだ。清掃活動以外にも、避難所における段ボールベッドの設置や、洗濯物を干す場所の確保といったところまで、過去の知見を活かしたきめ細やかな生活改善のサポートを行っている。



人こそが 人を支援できる ということ



ピースボートでは 災害支援を行っています

ピースボートでは、寄付をしたり物資を届けたりするだけでなく、実際にスタッフが足を運び、現地の状況を知ったうえで、その町や地域の復興に携わっています。さまざまな人と交流し、お互い困ったときは助け合うという船旅の基本が、「人こそが人を支援できる」という活動のテーマにつながっています。



PEACE BOAT ピースボート
災害ボランティアセンター

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

ピースボートが災害支援を始めたのは、1995年の阪神淡路大震災。当時、災害ボランティアの仕組みがそこまで整っていなかったなかで、ピースボートはスタッフや過去乗船者を中心、約300人を集めて現地へ駆けつけた。被災地での主な活動は、ボランティアをマネジメントしながら避難所での困りごとを聞き、それを解決

するための情報を載せた『デイリーニーズ』という新聞を毎日発行すること。手探り状態で始まったこの活動には、500人規模のクルーズを運営し、船内新聞を発行していたノウハウが思わぬ形で活かされた。

1995年以降、国内外を問わず災害が起こるたびにピースボートは支援活動を実施。そのなかで大きな

転機となったのが2011年の東日本大震災だ。中長期の支援が必要だと判断し、その年に一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）が設立された。「被災家屋の清掃活動」、「避難所の支援」、そして「在宅避難者への支援」など、被災地のニーズに合わせた多様な支援活動を展開してきた。最近では西日本豪雨で被害を受けた岡山県倉敷市真備町や北海道胆振東部地震の被災地にもすぐに駆けつけ支援を始めている。PBVの最大の特徴は、被災地に想いを寄せる人たちと共に、現場に常駐しながら支援活動を実施すること。

本当になにが必要なのか、お互いになにができるのかを理解し、信頼関係を築いたうえで、その地域に根づいた支援をボランティアと共にやっている。これまでPBVのボランティア活動に参加した人数はのべ9万人で、日本のボランティア団体としては最大規模だ。そのなかには、はじめてボランティアに参加するという人も多く、そういった方々でも安心して活動に取り組める体制が整っている。過去には、熊本地震で被災した益城町に常駐のスタッフを派遣し、約1年間に及ぶ災害支援を行っていた。

海外における支援では、世界各地に

ネットワークがあるピースボートの強みが存分に活かされている。2015年のネパール地震の際は、学校をはじめとした多くの建物が倒壊。PBVは、現地のカウンターパートナーと連携を取り、支援団体のひとつとして仮設校舎の建設に参画し、学習道具を届けるといった形でも支援活動が続けた。

またこれらの活動を通して、災害支援という視点だけでなく、ピースボートが関わる「地域づくり」や「国際協力」といった側面に興味を持ったという声も多い。

災害が起こった際に大きな力になるのは「その人や地域が、どれだけ多くのつながりを持っているか」という点。災害はどこでも発生する可能性がある。ピースボートの船旅を通して出会った仲間のことを思い浮かべ、もしもの時にはお互いに手を差し伸べられるようになるだけでも、この船旅には大きな価値があるかもしれない。自らが行った支援が、いつか自分に巡ってくることもあるだろう。人と人のつながりを大切にし、互いの関係性をつくれる場所を、これからもピースボートはつくり続けていく。

ご家庭に眠る「お宝」が被災者へのご支援になります。

「お宝エイド」は、ご家庭に眠っている寄付してもよい「お宝」をリサイクル会社に送ることで、それがPBVの支援金となる仕組みです。乗船前の荷造りを機に協力してくださる方もいます。着払いで送料は無料。また全国のピースボートセンターやジャパングレイスの営業所では余った外貨の紙幣やコインを支援に使える「外貨募金箱」も設置しています。

西日本豪雨(2018)食事支援



ネパール地震(2015)仮設校舎支援

- 金・貴金属
- 切手
- ハガキ・年賀状(未投函)
- ブランド品
- 図書券・テレカ・金券
- 勲章・金貨貨幣セット
- 絵画・掛軸
- 骨董品・刀剣・刀装具
- ダイヤモンド・宝石
- 懐かしのおもちゃ・ブリキ玩具
- ブランド食器
- 高級洋酒
- DVD・ゲーム
- 楽器
- カメラ・レンズ・携帯電話・スマホ



こんなもの送っていいの? などお問い合わせは

お宝エイド受付センター tel.03-6265-7595

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT
2018
Autumn

洋上からの
皆既日食

美しい街並みと輝くオーロラが待つ
アイスランド [レイキャビク]

第二特集

[発行] (株) ジャパングレイス

グローバル ヴォヤージュ 2018 Autumn 2018年10月23日発行 編集発行人: 井上 直 発行所: 株式会社ジャパングレイス 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13-2F TEL: 03-5287-3081

船上百景 [ハロウィン]



手作りの「ジャック・オランタン」と記念撮影。仮装をしなくても楽しみ方はそれぞれ。

ハロウィンは
洋上でも大盛り上がり

近年、日本でもすっかり定着したお馴染みのハロウィン。普段さまざまな企画でにぎわう船内も、今日は仮装をした乗船者が老若男女問わず大集合。

フリースペースに来ていた60代の女性に聞くと「カボチャを切り抜いて『ジャック・オランタン』の目や口を作るのが意外と難しかったです。人生ではじめて挑戦しましたよ。今日は若い方がみんな仮装しているのも印象的で、記念に写真を撮ってもらいました。ファッションショーなんかもあって、とにかく素敵な夜でした。ヴェネツィアでマスカレード(仮面舞踏会)のマスクを買いそびれたのをほんの少し後悔しています(笑)」

洋上ではハロウィン以外にも季節にちなんだイベントが盛りだくさん。洋上で迎えるこれらのイベントは、きっと一生忘れられない思い出になるはずだ。



ファッションショーはキッズも参加。



乗船者同士でメイクをし、各々が仮装を楽しむ。



編集
後記

“ただ待つのではなく自ら移動すること——”これは、部分日食ではなく「皆既日食」を見るために必要なことです。例えば東京で最後に皆既日食が見られたのは1524年の戦国時代。そして次のチャンスはなんと西暦2762年。このように場所によっては1000年に度の神秘的な出来事なのです。そんな貴重な現象のため、他社が2009年に企画した鹿児島県トカラ列島皆既日食クルーズは、2泊3日で40万円〜142万円という価格にも関わらず、予約が殺到し抽選となったそうです。それを世界一周の航海中に見ることができれば、長い人生のなかでも特に忘れられない数分間になることでしょう。

貴重といえば、本号でも紹介した銀幕のスター吉永小百合さんがNGOの主催するイベントに登壇されるのとても珍しいことです。以前からピースボートの活動を影ながら応援してくださっている吉永さんは、ご自身でも原爆を題材とした映画への出演や詩の朗読を行っています。ただ待つのではなく自らが動くこと——核兵器廃絶のためには、一人ひとりが行動することの大切さを教えてくれているように思えます。(N.I.)

PHOTO: PEACEBOAT, Endo Kazuhide, Kajiura Takashi, Katsuta Airi, Kawano Momoko, Matsuda sakika, Mizumoto Syunya, Nakasuji Kota, Okada keita, Okuhira keita, Shimomura Yu, Stacy Hughes, Ueno Yoshinori, shutterstock.com.